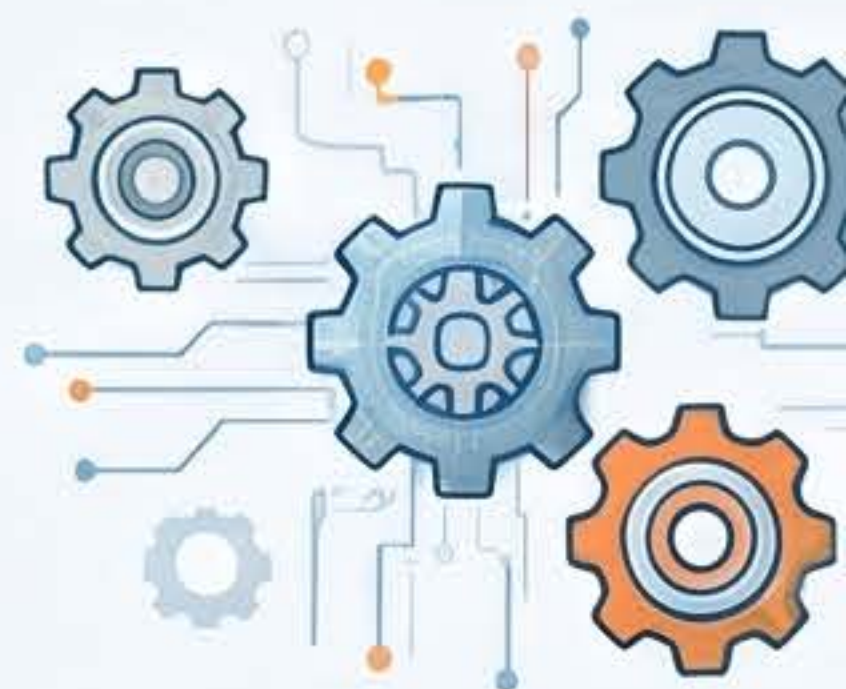
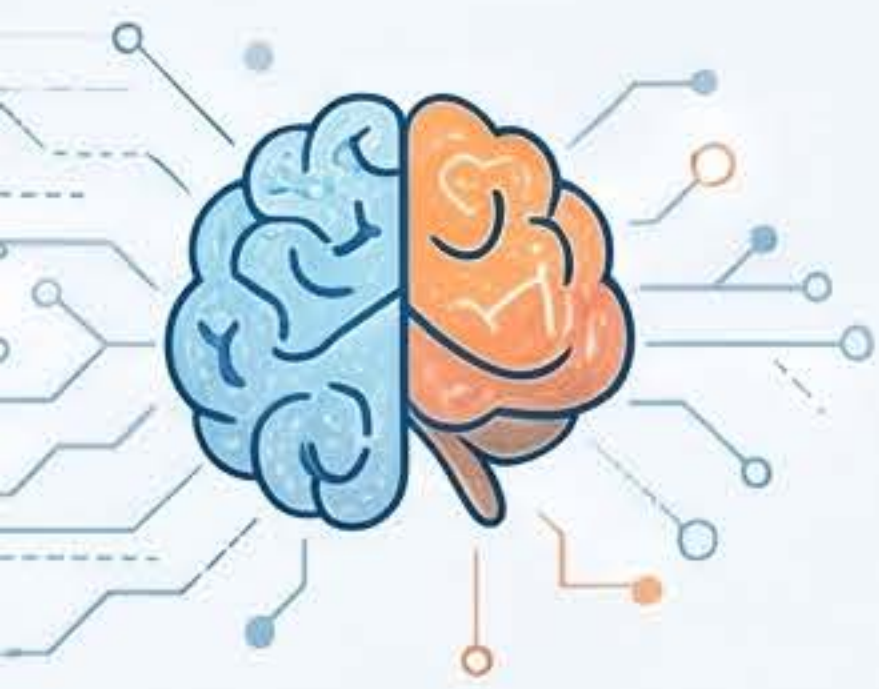


2026年ヒューマノイド覇権争い：日本の「勝ち筋」と戦略シフト



2026年 ヒューマノイド元年：AI（頭脳）と物理機器（身体）の融合

米国のAI基盤と中国の低コスト量産力が先行する中、日本は「完成体の自前・単独量産」という従来の勝利の方程式を捨て、世界市場で代替不可能な「精密ハードウェア」と「同期制御（神経系）」を押さえるポジション戦略への転換が求められている。

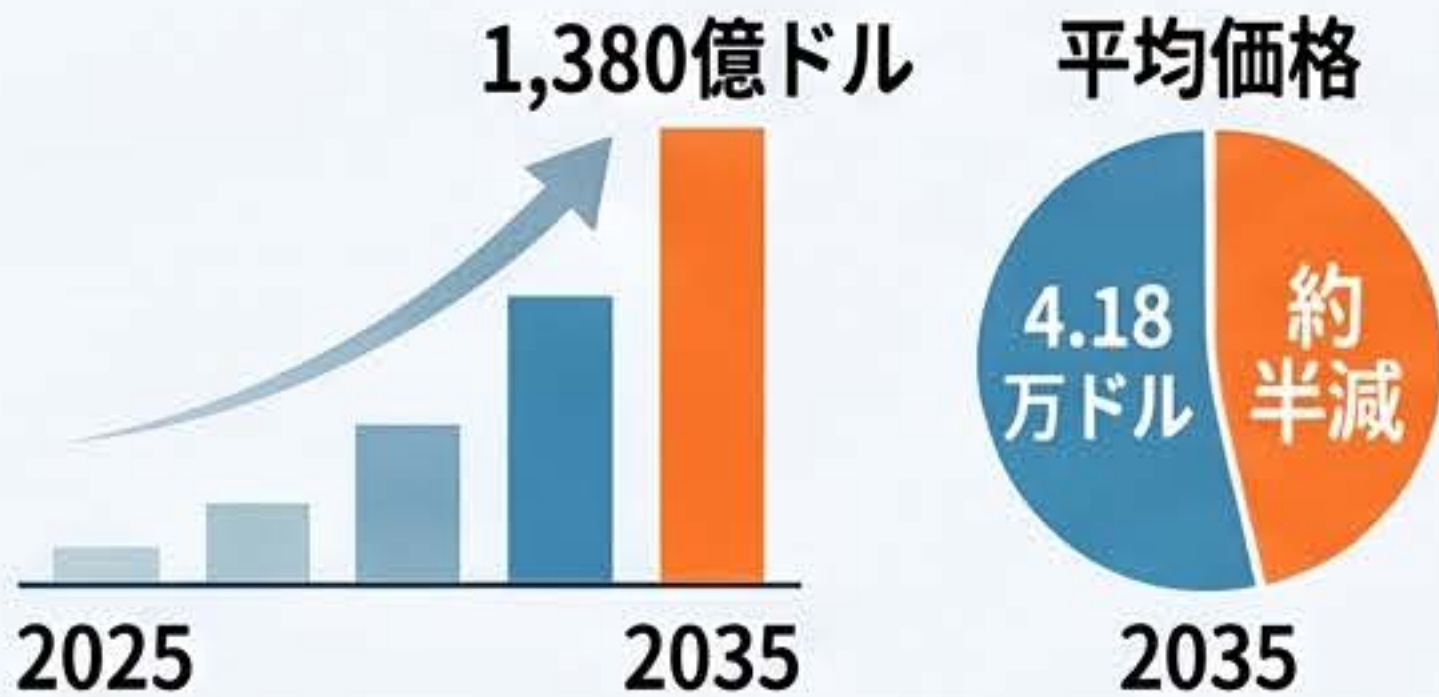
【戦略の再定義】全方位の完成体競争から「ポジション競争」へ



単独での完成体全方位競争を捨て「チョークポイントの掌握」へ舵を切る

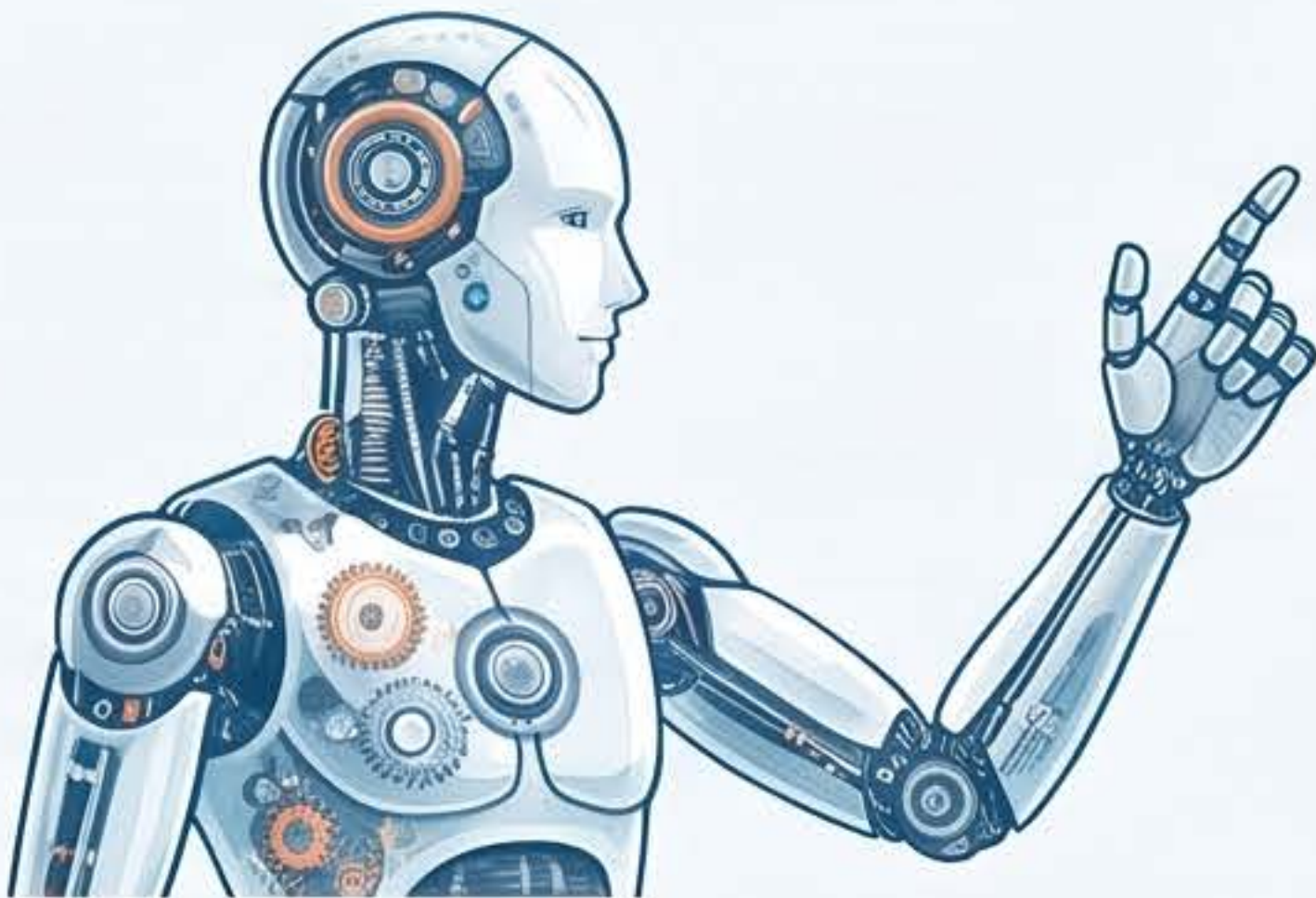
米国のAI基盤と中国の量産能力に対抗するため、不可欠な部材・制御の供給役に徹する。

2035年の世界市場は1,380億ドル（約650万台）へ拡大



商業化の加速に伴い、機体の平均価格は2025年の4.18万ドルから約半減する見通し。

【日本の強み】ボトルネック化する「身体」と「神経系」の制圧

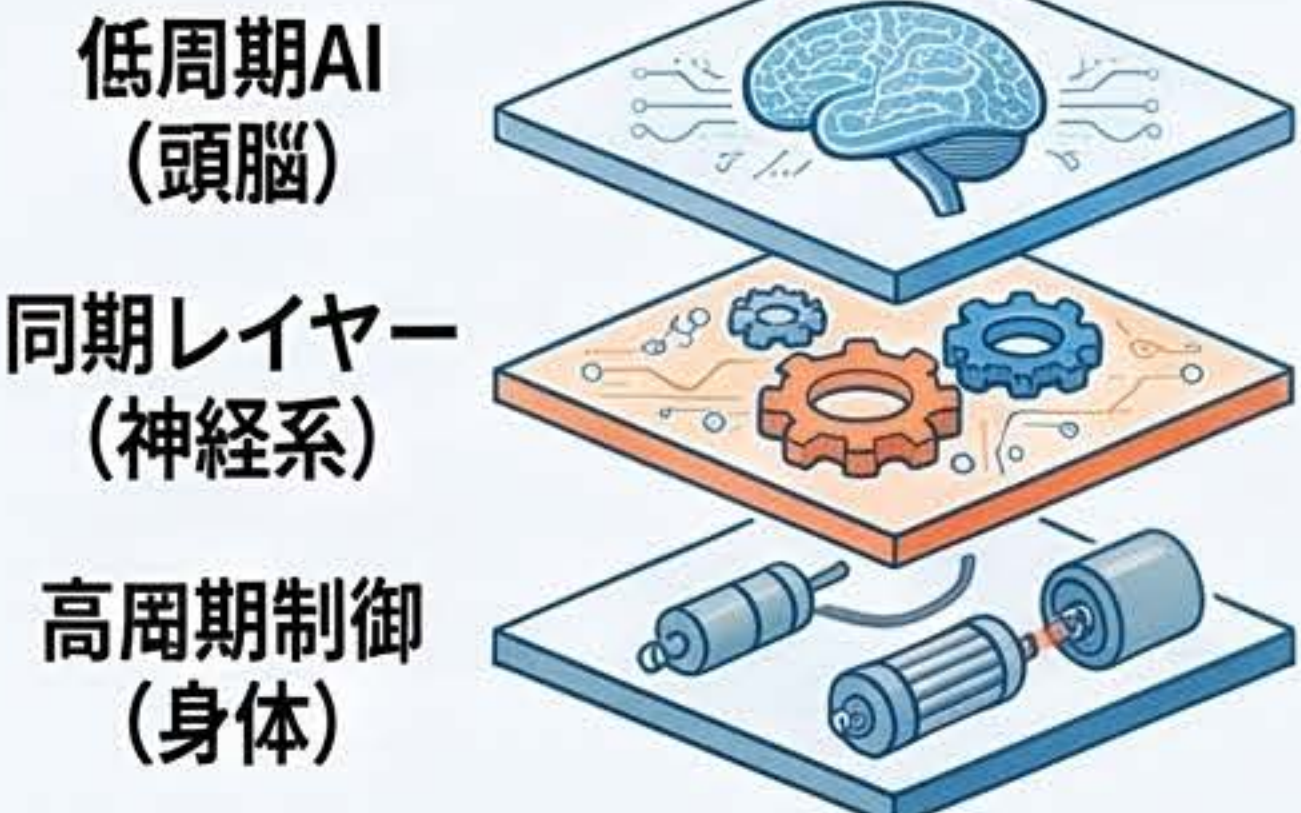
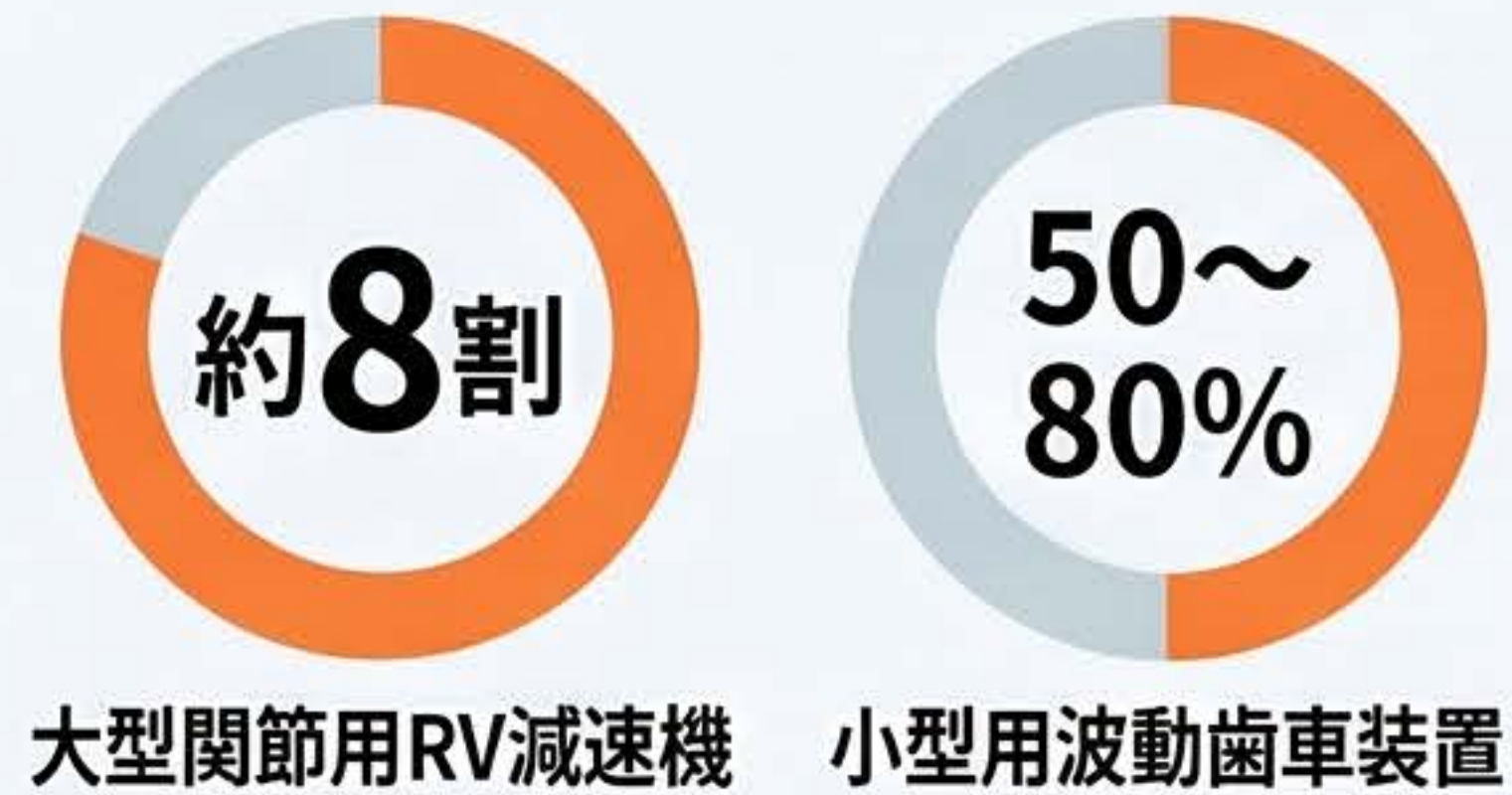


競争の真のボトルネックは「AI（頭脳）」から「物理ハードウェア（身体）」へ移行

AI推論コストの急落に伴い、物理空間で精度高く稼働し続けるハードの価値が高騰する。

精密減速機市場において日本企業が世界シェアの過半数を独占

低周期AIと高周期制御を繋ぐ「同期レイヤー（神経系）」の制圧



高度な擦り合わせ技術により、医療・介護・精密組立など高難度現場で参入障壁を築く。

ヒューマノイド産業におけるグローバル三極構造と日本の役割

国・地域	主な強み・役割	日本の戦略的アプローチ
米国	フロンティアAI・OS・ 知能プラットフォーム	米国AI（頭脳）×日本ハード（身体）の国際提携
中国	EVサプライチェーン転用による低コスト量産	世界の部品需要を取り込みつつ差別化を維持
日本	精密減速機・モーター・ソフトとハードの「擦り合わせ」	信頼性の高い「身体・神経プラットフォーム」の提供